

上田郷友会の歴史

上田郷友会月報一号巻頭の辞（参照）

今ヤ社会ハ益々複雑ヲ極メ文学ニ技芸ニ農ニ工ニ商ニ皆ナ彬々タリ蓋シ人智ハ日月ト共ニ進ミ駸々乎トシテ更ニ底止スル処アルヲ知ラス而シテ相会相互競争ノ器ハ愈々利ナリ嗚呼此ノ間ニ身ヲ処シ邦ヲ保ツハ亦容易ノ業ニ非ラサルナリ眼ヲ放テ世界ノ邦国ヲ見ヨ英ニ仏ニ獨ニ魯ニ各経営スル処アリ兵艦ハ益々快疾隊伍ハ益々整練以テ奇獲ヲ待ツ嗚呼危イカナ我国ハ東洋ノ一孤島ナリ然レトモ愛國ノ士ハ其ノ獨立ヲ永ク保持シ日章ヲシテ万邦ニ輝カシムルニ従事ス可キナリ今日ハ日本唐土天竺ノ旧天地ニハ非ラサルナリ我国ハ東洋ノ一孤島ナリ然レトモ愛國ノ士ハ其ノ獨立ヲ永ク保持シ威名ヲ轟カシムルニ拮据ス可キナリ講ス可キハ其ノ術ニ在リ究ム可キハ其ノ手段ニ在リ而シテ先ノ文学技芸農工商ノ者其ノ隆盛ヲ見サルハ利器ノ以テ強敵ヲ拒セキ我国ノ獨立ヲ永統スルニ足ラス抑モ我国ヲシテ欧米各國ヲ凌駕セシメント欲スルモノハ須ク文学技芸農工商ノ進歩ヲ謀ラサル可カラス而シテ又夫ノ進歩ヲ望マハ宜シク先ヅ其ノ道ヲ可ナルモノヲ撰ラヒ而シ後不屈不撓以テ之レニ當ラサル可カラス蓋シ一國ハ郡一郡ハ邑ヨリ成ル一國ノ隆盛ヲ企図スルモノハ先ヅ郡邑ヨリ始ム可シ然ラハ則チ終ニ一國ノ隆盛ヲ結果ス可キハ見易キノ理ナリ況

ヤ此際各郡邑間ニ行ハルルノ競争ハ益々以テ其ノ目的ヲ達スルノ媒介ヲナセハ各郡邑奨励ノ会ハ決シテ欠如ス可カラサルモノタリ

余輩力先ニ創立セル上田学友親睦会ナルモノハ其主トスル処又他ニ非ラス他郡邑ト競争ノ為ナリ松代ノ上ニ出テント欲スルナリ松本ノ右ニ座セント欲スルナリ薩長土肥ノ如キハ固ト之レヲ腎下ニ置カント欲スルナリ互ヒニ以テ我國ノ隆盛ヲ致サントナリ然ルニ方法其ノ宜ヲ失シ終ニ保持スルコト能ハサリキ而シテ明治十六年夏七月有志ノ徒大ニ前会ノ衰亡ヲ慨嘆シ同志ヲ募ツテ新夕ニ上田学友懇親会（當時郷友会ト称ス）ヲ設立セリ則チ前会ノ志ヲ継ギ會員相互奨励ノコトヲ勉メタリ然ルニ熱心ノ士ナキカ或ハ規約完全ナラサルカ又將夕方法ノ宜シキヲ得サルカ必シモ前会ノ轍ヲフマサルモ越エテ明治十七年夏秋ノ交ニ到レハ保統再ヒ困難ヲ告ケタリ茲ニ於テ乎會員相集リ本会保統ノ事ヲ討論ス甲論シ乙駁シ終ニ本会ノ維持法ハ本会ヲシテ勢力ヲ得セシムルノ他ナキカ故随テ先ヅ雑誌ヲ刊行スルニ決シ名ツクルニ月報ヲ以テセリ是レ本会カ月報ヲ発行スル所以ニシテ毎号記録スル所ハ

記事 論説及雑誌 雑報ノ四頁トス

即チ本報ノ起因ヲ以テ緒言トスト云フ

明治乙酉歲一月七日

山極勝三郎 識

上田郷友会の起源及沿革

本会創立前明治11年頃、「上田医学学生会」と言うのが生れた。當時上田地方よりの留學生は殆ど医學生であつた。一兩年を経て「上田学生会」となつた。其の後「上田郷友会」又は「上田学友親睦会」と称して、会合されたが倒れては起き、起きては倒れると言う状態であつた。

明治17年有志總會の結果「上田郷友会」が誕生した。其の会の規約ができたのが12月、そして明治18年1月、月報を發刊した。

明治20年、会の維持を計るために普通會員と維持會員とし、學生等は普通會員、既に独立の生計を営む者をば維持會員として普通會員の倍額を納むる事とした。

明治31年基本金の制度を定め、金20円以上の出金者を終身會員とした。

大正9年物価の大騰貴によつて会費を引き上げたが20円以上会費を払つた者は終身會員として推薦した。創立の頃の役員は幹事1名、會計委員2名、編輯委員5名の外に監督2名を置いた。

後、編輯委員3名庶務委員2名會計委員2名と定め、しばらくして庶務委員が會計を兼ねる事にした。

明治31年庶務委員を幹事とし其の中より専任幹事1名を置き、尚郷里部に郷里事務委員を置いた。

大正6年編輯委員及び幹事の制度を改めて一列に幹事とした。役員の名称等にこだわる事なく、みな協力一致本会の發展に尽力する事にした。

本会の事業は、毎月例会を開く事、月報を發行する事であつた。毎月の例会は暑中休暇で休んだこともあつたが継続した。

月報は明治18年1月より6号迄發行したが無届けであるので改めて官許を得て10月に1号、12月に2号を發行19年7月迄続いた。然る所當時此の印刷を引き受けた書林尚古堂北島喜三郎氏が事業上其の他の事で、委員その他に相談せず勝手に廢刊届を出した。

委員一同は憤慨したが、事態を静観して、種々の手續を済まして明治19年11月に第3回目の1号の發行を見るに至つた。

昭和3年9月第500号を發行したが、夫は此の19年11月号より起算したのであるからほんとうの数は尚之に22回分を加えるのだと宮下翁が述べられて居る。

記念号としては明治42年「25周年記念誌」前編170頁、後編200頁に達した。

大正4年「30周年記念誌」202頁、500号は206頁。

昭和18年9月6日680号を宮下翁記念号として200頁の大冊、宮下翁80の賀によつて祝つた。

昭和19年3月、時局により、印刷所企業整備のために廢業、依つて3月25日第685号を以て終止符を打つた。

会 告

上田郷友会は永遠なるも時局のため月報發行は不可能と相成候に付実に残念至極に候へ共本日限り休刊の止むなきに至り候次第御同情被下度敵米英撃滅天下泰平の暁には華々しく再刷可致候間其の期を御待望の程懇願の至に不堪此に会告候也

昭和19年3月25日

上田郷友会幹事

例会場の事

創立当時は神田旅籠町の福田屋を主として神田小川町今川小路玉川亭、美土代町自由亭、湯島昇竜亭、上野公園韻松亭、又芝田町の海水浴神田雉子町栄国亭、牛込揚場町西洋館、神田錦町重の井、麴町飯田町仁川亭等当時貸席が多かったので便利であったが、明治33年宮下翁が監獄協会の事務を担当して其処に住われたのでそこを利用した。最初は八重洲橋内、後麴町区飯田町に移った。

明治18年1月4日神田福田屋に初めて例会を開く。

宮下翁が協会と関係が絶たれてから又神田の福田屋が主となった。大正8年千曲寮が出来たので其処で集会した。

大正12年震災にあったので文部省の構内等で開いたが大正15年から岡村得氏の好意でレインボーで会合した。それが終戦時迄に及んだのである。

大会場は浅草須賀町にあった井生村楼（後隣遊館）、飯田町の富士見楼、金清楼と当時としては一流所であった。

郷里部会。明治15、6年頃、上田学友会というのが上田に起り毎月会する外、年1回大会が開かれたので殊に同会員が全部上田郷友会に加入されたので23年迄続いた。24年8年には之を上田郷友会郷里部大会と称したが36年に再興したが、日露戦争のため中断。40年更に復興時に消長もあったが続いたのであった。

会員の消長。創立当時170名、23年300名、32年500名、大正4年30周年に680名、昭和元年に90数十名に達した。宮下翁は是非1、000名にと念願されたのですが、昭和18年末名簿には82名、戦争での影響もあった。

北米支部の誕生。滝澤幹事が大正14年北米旅行ロスアンゼルス視

察の際上田附近の出身者が歓迎会を開いた際の記念として上田郷友会北米支部が生まれた。当時会員34名。浦田恵佐次郎氏、丸山首五郎氏が専ら御世話くださったのでした。

昭和18年3月以降の事蹟

4月6日に例会を開き之が最終会と思ったが、レインボーが連峰会館として集会所とし尚食事の供給も出来るということで5月6日に開会した。参会者25名、ゴロ版の1枚刷の会報を発行。

宮下翁は5月18日2人の令甥の居る沼田町下の町石沢貞雄方に転住。

6月7月と号を追って之は在京の者だけに配布した。

然る所余りの貧弱誌を見兼ねて大塚稔君が、24字詰50行4頁の上田郷友会月報用紙を1ヶ年間贈せらるる事になったのでその好意に浴した（滝澤さんほんとにあなたが郷友会月報を出すのですかこの3回甚だ見苦しいから私が寄付しますと大塚氏の電話で涙がこぼれた）8、9、10、11、12月、20年1、2月と発行し3月9日に原稿を大塚氏に届けたその晩が東京大戦災。万事休。

5月26日。中野小淀町の滝澤幹事の宅二度目の戦災。

滝澤幹事は直ちに6月2日朝日新聞に上田郷友会の所在を江戸川区宇喜田町2063番に置くと広告を出した（広告料37円23銭）であった。

9月8日上田の滝澤宅に浅井敬吾、半田四一、成沢伍一郎、金井章次の5氏が会談、10月21日更に滝澤宅に15人が集まった。

連峰会館は焼け残ったが8月廃業の余儀なきに至った。

昭和20年12月2日、丸の内3丁目常磐屋の3階自由党本部の室を

利用して会合しました。

瀬川金三郎、三井純一、深沢キク、半田四一、清水澄、高山九二男、立川雷平、上原浦太郎、滝澤勝人、山浦貫一、波多野深、奥田伍一、岩崎松太郎、林茂、鈴木三郎、松尾茂、滝澤七郎。当時滝澤七郎君が自由党代議士副会長、庶務部長でした。17名中今日既に16名が故人、生存者僅か1名とは残念。之が再興の一会合でした。

この時全部に通知したが受取人なし140通が返送されましたので、名簿確定会員700名に減じたのでした。

昭和22年1月2日、上田郷友会報告と題して会員に送付、正月例会を常磐屋に開く。

この1月報告にて20年12月17日の宮下翁の逝去を御知らせする事が出来た。

3月初めて上田郷友会月報として4頁現在のものを発行。印刷其他を上田市新町滝沢正智君に頼みました。

3月24日、日曜日1時より上田新町の滝澤七郎宅にて茶話会を開きましたのが今日の上田例会の初めです。

昭和21年の大会を11月3日滝澤工場講堂に開き28名出席、郷里部大会を11月30日大工町常磐に開き来会者実に65名の盛況を呈した。

昭和21年3月名簿発行。

紙不足の際に滝澤幹事の手持の紙と三村起一氏の好意で発行。

昭和22年2月より例会を神田小川町2ノ5全国鑄物協議会に開く事にした。郷里部は上田図書館。

上田郷友会月報を上田で出版せるを漸く東京に再興した元須田町印刷する事になった。

昭和22年6月号より、郷友信濃と命名した。それは郵税が1部8円となったので第3種郵便物として郵税1部4円とするためで会員

組織でなく会費でなく、一般販売との理由によったのです。併し月報に変わりはない。

記載事項は専ら、信濃郷土史の研究、郷土文芸の発表郷友団体の連絡指導。

東京例会場の変更。10月より中央区京橋1ノ2、郵船ビル3階エントニーヤクラブとした。

昭和26年8月4日の例会より本所東両国4ノ3大東信用金庫3階にて開会する事にした。之は理事長滝澤七郎君の好意に依るもので毎月支払う会場費が出ないと言う訳でした。

1ヶ年会費100円を更に150円に改む。

昭和27年8月名簿発行、昭和29年3月名簿発行、昭和30年3月名簿発行、昭和31年1月名簿発行、昭和32年12月名簿発行、昭和34年1月名簿発行、昭和36年1月名簿発行しました。

昭和30年10月29日創立満70年祝賀会をかねて郷里部大会を上田城明倫堂に開く。好天氣に恵まれて出席者171名、東京大会も空前の100余名、盛会を極む。そして幹事滝澤七郎翁に肖像画を贈呈しました。亦、郷里部各位の熱意と殊に唐沢勇及び滝澤百代両氏の多大の御尽力が実を結んで上田郷友会としての悲願会員1,000名突破を見るに至りました。

昭和38年以降の事蹟

昭和38年1月11日、月報発行主宰幹事滝澤七郎翁が急逝され、1月12日の例会において、滝澤勝人氏がその後任に選ばれ、新井守太郎氏、田中芳雄氏が月報材料の収集幹事に選任される。又1ヶ年会費は、300円に改む。同年3月矢崎貞次氏幹事に選任さる。

昭和40年2月創立満80年記念名簿を発行しました。同年12月4日料亭大金において創立80年記念大会を催し、本会々員日展審査員竹内不忘氏作の原型になる鶴の巣籠の文鎮を記念品として出席の全会員に贈る。

昭和45年2月創立満85年記念名簿を発行しました。幹事の田中芳雄、鈴木三郎、勝俣稔の3氏逝去により新に小林英次郎氏を、又郷里部幹事竹花忠助、岡崎袈裟男、兎束武男の3氏逝去により新に松野量平、滝沢宗太、丸山定雄の3氏が幹事に選任される。

昭和46年2月北米支部幹事丸山音五郎氏死亡により浦田大督氏後任幹事に選任さる。

同年7月1年会費を500円に改む。

同年9月宗田尚久・中沢夏雄の2氏幹事に選任さる。

昭和47年6月坂井実雄氏幹事に選任さる。

昭和49年11月遠藤恭介氏、丸山寿氏郷里部幹事に選任さる。

昭和50年2月創立満90年記念名簿を発行しました。

昭和50年4月より年会費を1,000円に改む。

昭和50年12月6日市ヶ谷私学会館において創立満90年記念大会を催し、滝澤勝人幹事に感謝状と銀扇置物を贈り、出席会員に南部鉄製一輪差を贈る。

昭和54年11月郷里部幹事清水利雄、岡部忠英、丸山定雄3氏の後任として、瀬川清、松坂智、塩川道子、若林貞子の4氏幹事に選任さる。

昭和55年2月創立満95年記念名簿を発行しました。

昭和56年11月幹事新井守太郎氏死亡につき、昭和57年2月袴修一氏幹事に選任さる。

昭和57年6月5日(土)、上田図書館において東京会員15名、郷

里部会員44名集まり、合同例会を開き、同夜別所温泉花屋ホテルにおいて合同例会を開いた。

昭和59年以降の事蹟

昭和59年9月幹事宗田尚久氏に代り高見沢澄平氏が幹事に選任された。

第98回郷友会例会大会が、58年12月3日(土)大東信用金庫本店ホールで44名の会員が出席して盛大に開かれた。

当会代表幹事滝澤勝人氏が「続私の随筆紀行文集」を、また会員横田栄一郎氏が「峡の小径」を出版された。

昭和59年4月、当会代表幹事滝澤勝人氏に勲四等瑞宝章が授与されました。滝澤氏の多年の功績に対して授与されたもので会員一同お祝い申し上げます。また6月度の例会は滝澤幹事の祝賀パーティーとして多数の方が出席した。

59年11月18日、東京銀座「ライオン」で開かれた千曲寮寮友会大会に滝澤代表幹事が出席、郷友会と千曲寮の関係について講演、多大の感銘を与えた。

59年12月1日(土)第99回例会大会が、大東信用金庫本店大ホールで45名の会員が出席して盛大に開かれた。

60年2月「上田郷友会満百年記念を迎えて」の「郷友信濃」特集号を出す。

60年11月、中沢信蓮幹事が辞任申し出あり、これを承認した。

上田郷友会創立百周年大会開く

上田郷里部会の創立百周年記念大会は、60年11月10日、新装成った上田商工会議所五階大ホールで盛大に開かれた。東京からは滝澤勝人ご夫妻、袴修一、中沢信蓮、中村正巳、中沢夏雄、高見沢澄平、宇川一郎の諸氏が出席した。

上田郷友会創立百周年記念祝賀会は、60年12月7日(土)上野精養軒の二階「あやめの間」で87名の会員が参加して盛大に開かれた。滝澤代表幹事から、当会創立から百周年に至る歴史の経過を語られ、ついで辞任された中沢信蓮幹事の後任に生駒賢助氏を推し承認された。上田部会からの出席者は遠藤恭介、丸山寿、瀬川清、松坂智、塩川道子、水野眞一の諸氏。

第101回例大会は、61年12月6日(土)大東信用金庫本店大ホールで来賓、会員54名が出席して盛大に開かれた。

62年11月、滝澤寿々、清水幾男の両氏を幹事に推薦し、了承を得た。また矢崎幹事が黄綬褒章を授与されました。本当におめでとうございます。

62年12月5日(土)上田郷友会第102回大会が大東信用金庫本店大ホールで41名の方々が出席して盛大に開かれた。

63年1月10日郷里部上田の例会に東京の清水幾男幹事が出席。

第103回例大会は12月3日(土)大東信用金庫本店の大ホールで29名の会員が出席し、「ふくびき」なども行い、賑やかな例会となった。

平成元年1月7日、昭和天皇崩御。光と影、激動と繁栄の「昭和」の幕がおりた。福沢諭吉は「文明論の概略」の中で「あたかも一身にして二生を経るが如し」といつているが、昭和天皇も、20年8月15日以前と以後、戦争と平和の二つの違う価値体系の世界を体験さ

れたわけです。

同年2月からは、金融機関が土曜日となるので、これからは曜日に関係なく、毎月の6日を定例日とすることになった。6日が土曜、日曜と重なった時には適宜前後にずらす。

1月度の例会で、郷友会の諸事務を処理しご苦勞を願っている大東信用金庫の和田龍三氏を幹事に推薦、満場一致で承認。

郷友会の為、先代の滝澤七郎氏の後を継いで以来、献身的な奉仕をして下さった滝澤勝人氏が平成元年4月24日に逝去されました。享年87歳。近親者による密葬は26日、滝澤工業株式会社社葬は30日、中野の宝泉寺で盛大に行われた。

同年6月。「郷友信濃」6月号は滝澤勝人氏追悼号とし、滝澤家の皆さんの他、横田栄一郎氏、馬場長市氏等他、多数の方の追悼記事ならびに葬儀当日の弔辞などを収録して哀悼の意を表した。

平成元年12月6日、第104回例大会を大東信用金庫大ホールで挙行。特別議題として滝澤尚久氏を幹事に推薦、満場一致で承認した。

平成2年1月、上田郷里部会の例会に東京から清水幾男、宇川一郎の両氏が出席し、東京部会の状況や千曲寮の運営の状況などを説明した。東京部会には郷里部幹事の丸山寿氏が出席し、東京・郷里の交流などを話あった。

同年2月、郷里部会との交歓のため、東京から横田栄一郎、大森頼雄、小原六郎、半田収一郎の四氏が出席した。

同年5月8日の例会に上田部会から丸山寿、瀬川清の両氏が出席された。

同年6月、テレビ西日本で放映された「遙かなるダモイ・収容所から来た遺書」を見る。これは会員の松野輝彦氏がシベリアに抑留されていた時のことをドキュメントにまとめ上げたもの。

同年9月、例会開催日を、第二土曜日の正午から大東信用金庫の食堂で開催することに決まった。会費は千円。

同年10月、松野輝彦氏が上田部会において「遙かなるダモイ 収容所から来た遺書」について講演を行なう。

同年12月7日（金）、第105回例会大会を大東信用金庫講堂で開く。

平成3年以降の事績

平成3年5月11日、松尾倶楽部と合同で金龍山浅草寺の見学会を行なう。清水谷孝尚大僧止のご案内で、普段は拝観できないところまで見学させてもらい、清水谷大僧止の法話を拝聴して一同感激しました。

同年11月9日（土）、例会終了後、松尾倶楽部と合同で、目下建設中の江戸東京博物館建設工事現場の見学を行なう。

同年12月6日（金）、大東信用金庫講堂で第106回例会大会を開く。

平成4年11月の例会で、当会の会報が第三種郵便の適用から外されることになり、郵便代がはね上るので誌代を来年1月から2,000円に値上げを決定。

同年12月4日（金）、大東信用金庫で第107回例会大会を開く。

平成5年5月7日（金）、江戸東京博物館見学会を行なう。

同年12月3日（金）、第108回例会大会を大東信用金庫で開く。キングレコード専属歌手会田久美子さんが特別参加。

平成6年12月2日（金）、大東信用金庫会議室で第109回例会大会開く。モンゴル民族劇団歌手オドゥバルさんが特別参加。

平成7年5月26日 永年にわたり上田郷友会上田部会代表幹事として文化活動に尽してこられた丸山寿さんが上田市功労者として表

彰される。

上田郷友会110周年記念大会開く

上田郷友会110周年記念大会は平成7年10月7日（土）大東信用金庫9階大ホールで開く。この大会には日本銀行文書局長の萩原清人氏を招いて記念講演を開きました。萩原局長は佐久市出身で、上田高校59期の卒業。東大法学部を卒業後、日本銀行に入り数々の重要ポストを歴任された方。

平成8年1月15日 当会の代表幹事である矢崎貞次氏が肺炎のため逝去されました。葬儀は2月2日上野寛永寺輪王殿で各界の皆様参列のもとに、盛大に行われました。上田部会からは佐藤毅部会長が出席してくれました。

会報題字を「上田郷友会月報」と改題

当会の会報の題字は「郷友信濃」となっていました。1,300号から創立当初からの題字「上田郷友会月報」と改題することに決定。矢崎貞次氏逝去に伴う代表幹事の後任には3月6日（水）の例会で滝澤尚久氏を推すことが提案され、満場一致で可決されました。当会の会員芹沢守利さんが永年交通業界に貢献した功績を認められ、今回の生存者叙勲で勲一等瑞宝賞を授与されました。

7月18日 当会上田部会の最高顧問で、上田部会今日の隆盛の礎を築かれた丸山寿さんが逝去されました。当会からは滝澤尚久さんと和田龍三さんが葬儀に参列して哀悼の意を表しました。

同年12月4日（水）、第111回例会大会を大東信用金庫9階の大ホー

ルで開く。上田部会から佐藤毅部会長が参加されました。まず幕開けは特別参加の三遊亭金時さんの「落語ライブ」。金時さんは金馬師匠の息子さんで、今売り出し中の若手です。

平成9年1月11日 上田さ・さ・やに於て上田部会新年度総会が開かれ、東京からは滝澤尚久代表幹事と和田龍三幹事が出席しました。

平成7年以降の事績

平成7年1月14日の上田部会総会において丸山寿氏が上田部会の代表を勇退し、佐藤毅氏が上田部会長を務める事となった。これ以降上田部会では、毎月上田で月例会を開催し、上田部会月報を偶数月に発行するようになったが、佐藤毅氏は上田部会の次月の例会予定とその月の月例会の講演内容をまとめて『上田だより』として東京に送って来ている。東京では、この次回の上田部会の次月の例会予定とその月の月例会の講演内容を毎月発行する『上田郷友会月報』に載せているが、平成12年3月からは『上田部会例会記』および『次回例会のおしらせ』としてほぼ1ページ分を上田郷友会月報の同じ場所に載せるようになって現在に至って居る。

平成7年10月7日に東京で、110周年大会を大東信用金庫で開催し、同じく上田部会では、平成7年10月14日に110周年大会を上田市内のささやで開催した。

平成8年1月15日に代表幹事矢崎貞次氏が逝去されたので、平成8年3月6日に滝澤尚久氏が代表幹事に選出された。

平成8年3月の月報より、第3種郵便で郵送するために48年間月報に使って居た『郷友信濃』と云う題名を『上田郷友会月報』に戻した。この月から月報の郵送料が一般郵便と同じに値上がりして、

それ以後の会の収支に影響したので、会の運営を別の角度から合理化する事を迫られることとなった。そのために取られたのが、①名目だけの会員の整理 ②印刷費 の節約であった。

上田郷友会では事務費と人件費はもとも会員のサービスで行って居たので、この2点しか経費を節約する手段は無かったのである。①名目だけの会員の整理 については同時に会員の減少にもつながったし、②印刷費の節約 については印刷所の協力が、不可欠であった。前者については、会員の減少を覚悟でほとんど予定通り実行出来たが、後者については、一部は印刷所の協力を得たが、その多くは、会員からの寄付金で賄うこととなった。上田郷友会は発足当初から会員のサービス精神を基本としていたので、そのサービスに頼って現在も続いている。上田郷友会は利益活動はしなくて良いが、赤字にならない会計にはしたいものである。

そのような検討をしている最中に、当時例大会及び例会の会場を無料でお借りして居た大東信用金庫が4つの信用金庫が合併して、東京東信用金庫となり会場の無料貸貸が出来なくなった。従って会場の開催場所を変更せざるを得なくなり、月例会は滝沢工業(株)のビルの2階会議室を無料で、例大会は他のホテルを有料で借りざるを得なくなっている。

例大会の会費が高くなることは、出席する会員の負担を、引いてはその減少につながる。最初の6年間(平成12年～17年)は錦糸町駅前にあるロッテ会館が比較的会場費が安かったたので利用して居たが、平成18年からは此処も閉鎖してしまった。平成19年からは、両国駅前のザ・ベルグランデを利用しているが、会場費については満足できないでいる。会員の誠意に報いるためにも、更に良くて安い例大会が開催できる会場を今も探している。

平成11年1月より事務局の所在地を墨田区両国4-31-16大東信用金庫内から墨田区江東橋1-15-5の滝沢工業(株)内に移転した。大東信用金庫は合併により平成11年2月から東京東信用金庫(略称・ひがしん)となったが、月例会は平成12年9月まで東京東信用金庫の会議室を続けて無料で貸してもらったが、平成12年10月から滝沢工業(株)の2階の会議室で開催するようになった。

また、毎年1回行う例会大会は予算の都合もあったが、最も近くて適した場所にある錦糸町駅前のロッテ会館で、平成12年12月の例会から行うこととなった。

第120回例会大会が、上田部会では平成17年1月8日に上田市大門町のささやにおいて、東京では平成17年10月8日に錦糸町駅前のロッテ会館で行われた。

平成18年1月7日の上田部会総会で佐藤毅氏が会長を勇退され後に伊東邦夫氏が会長に選任された。

東京では、平成18年から例会大会を、両国駅前のザ・ベルグラndeで行うこととなり、平成18年12月9日の例会大会がここで行われ、それ以来例会大会の場所を、ここに移した。会場費はロッテ会館が安かったが、会員からの大会費は同額とし、赤字分はお祝儀で補填して居るが、毎年苦しい会計である。

平成20年7月7日東京の月例会では、国会議事堂の研修見学を行った。平成21年5月31日東京の月例会では、草津温泉(群馬県)へ研修旅行を行った。草津温泉では旅館で一室を借り切って、何時もの月例会と同じく発表会も行った。勉強熱心な会員ばかりである。

平成22年10月4日東京の月例会では、熱川温泉(伊豆)へ研修旅行を行った。ここは太田道灌が発見した温泉で、旅館の前には太田道灌の像が建てられていた。海辺の崖の小さな場所に出来た温泉である。

平成23年7月4日東京の月例会では、月例会終了後、参加者全員で建設中のスカイツリーすぐそばにある食堂で夕食会を行った。費用は全て会員の伊勢亀嘉子様のおごりだった。上田郷友会は互助の精神で成り立っていることが、会員の皆さんは良く解っているが、月例会出席者全員がまだ未完成のスカイツリーのそばの食堂で会食出来たことに一同深く感謝をしながら散会した。

平成24年1月14日の上田部会総会で伊東邦夫氏が会長を勇退され後任に島田基正氏が会長に選任された。

平成24年5月10日上田部会が研修旅行で東京を訪れた時にあわせて、浅草ごろごろ茶屋で東京・上田部会合同の昼食会を行った。上田からバスで東京各地を見物された上田部会の方々は、さぞかし疲れた事でしょう。

平成24年10月9日東京の月例会では、湯西川温泉(栃木県)へ研修旅行を行った。ここは平家の落ち武者の村で、当時の落ち武者の生活を忍ばせるものと、小さいがその博物館がある。

平成25年5月6日上田郷友会のホームページを開設した。

平成25年10月22日東京の月例会では、国立天文台の研修見学を行った。平成26年8月6日東京の月例会では、上田のシンボル太郎山の登山に希望者が行った。

平成26年9月24日東京の月例会では、富岡製糸場・碓氷湖の見学旅行を行った。

平成26年10月10日東京の月例会では、三陸鉄道・陸前高田・気仙沼・釜石へ研修旅行を行った。

平成27年2月5日東京の月例会では、月例会にあわせて故浅野井恭氏の追悼会を行った。故浅野井恭氏は上田郷友会創立130周年記念誌の編集委員長になって、亡くなる3日前には、その抱負と上田郷

友会創立130周年目にめぐり合わせた喜びの挨拶を月例会で元気にされたばかりであった。編集委員長が亡くなってしまったので、記念誌発行の期日も迫っているので、編集委員長は置きません。

平成27年3月10日滝澤代表幹事が上田郷友会に行き上田部会の島田会長他4人の役員と一緒に上田市役所に行き、母袋市長他4人の上田市の関係役職の方に、上田郷友会創立130周年記念誌への原稿のお願いをした。